

Economic Indicators

発表日: 2024年6月28日(金)

景気動向指数(2024年5月)の予測

～基調判断が「下げ止まり」に上方修正されるも、先行きは不透明感が強い～

第一生命経済研究所

シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

(TEL: 050-5474-7490)

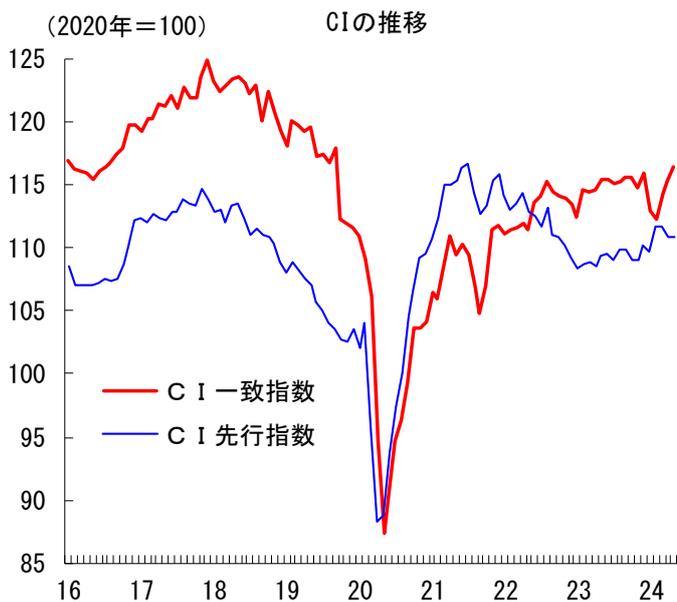
自動車の生産再開が進み、3ヶ月連続の上昇を予想

内閣府から7月5日に公表される2024年5月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差+1.2ポイントと3ヶ月連続の上昇を予想する。C I一致指数は認証不正問題を受けた工場稼働停止の影響等から1月に前月差▲3.0ポイント、2月に▲0.6ポイントと大きく落ち込んでいたが、自動車の生産再開が進んだことから3月以降持ち直している。5月のC I一致指数の水準は、認証不正問題前の23年12月の水準を若干上回る見込みだ。なお、5月の内訳では、輸出数量指数や有効求人倍率がマイナスに寄与する一方、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、耐久消費財出荷指数など生産、出荷関連系列が押し上げ要因となる見込みである。

基調判断は「下げ止まり」に上方修正も、楽観はできず

C I一致指数の基調判断は、前月までの「下方への局面変化」から「下げ止まり」へと上方修正されるだろう。仮に予想通りの値になった場合、5月分の3ヶ月後方移動平均前月差の値はプラス幅が明確に拡大し、「3か月後方移動平均前月差の符号がプラスに変化し、プラス幅が1標準偏差分以上」かつ「当月の前月差の符号がプラス」という基調判断の上方修正基準を満たす。認証不正問題で落ち込んでいた景気が、生産再開が進んだことでいったん下げ止まったことが示されるだろう。

もっとも、先行きの回復ペースについては不透明感が強い。5月の鉱工業生産指数は前月比+2.8%と自動車の押し上げが寄与する形で上昇したが、同時に公表された製造工業生産予測では、6月が経済産業省による補正試算値で前月比▲6.0%と大幅な悪化見込みとなっている。その先の7月は前月比+3.6%と増産が見込まれているものの、6月の落ち込みを取り戻す計画にはなっておらず、一進一退の域を出ていない。鉱工業生産と関係の深いC I一致指数においても、当面回復感に欠ける動きとなることが予想される。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2024年5月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

